

授業科目名	きもの学Ⅰ		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 1年次	単位数	1単位（21時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	高屋美代子	テキスト	きものの基本 きもののたのしみ
授業目的	着物全般の種類や着こなしの基本、産地や文化、歴史に関する知識を学び、自らの専門と結びつけて学んだことを活かす。		
授業概要	きもの文化検定の教本を活用し、講義形式で学び、きもの文化検定の合格を目指す。		
到達目標	きもの文化検定4級以上の合格		
授業計画	第1回 きものを着る時に必要な物・きものの種類と着こなし 第2回 きものを着る時に必要な物・きものの種類と着こなし 第3回 基本的な帯の種類・小物、羽織とコート、男のきもの、浴衣、各部の名称 第4回 基本的な帯の種類・小物、羽織とコート、男のきもの、浴衣、各部の名称 第5回 子供のきもの、きものの主な産地と特徴、きものの歴史、基本的なコーディネート 第6回 子供のきもの、きものの主な産地と特徴、きものの歴史、基本的なコーディネート 第7回 素材と夏物、日本の色、きものの文様、自信がつく美しい立ち振る舞い・通過儀礼と装い 第8回 素材と夏物、日本の色、きものの文様、自信がつく美しい立ち振る舞い・通過儀礼と装い 第9回 紋、収納と手入れ たたみ方、きもの文化検定試験対策 第10回 紋、収納と手入れ たたみ方、きもの文化検定試験対策 第11回 きもの文化検定試験対策 第12回 きもの文化検定試験対策		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 筆記テスト（50％）・模擬テスト（15％）・課題提出（10％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	日本文化 I		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 1 年次	単位数	1 単位（15 時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	大内惣介、松下園甫 久保村正高	テキスト	プリント
授業目的	着物をより理解するために日本文化を様々な視点から学ぶ。		
授業概要	各専門講師より日本の文様、茶道・華道・風呂敷の包方などを演習や講義を通して学ぶ。		
到達目標	講義や演習をとおして日本の文化を様々な視点から理解する。		
授業計画	第 1 回 日本の文様① 第 2 回 日本の文様② 第 3 回 日本の文様③ 第 4 回 日本の文様④ 第 5 回 茶道① 第 6 回 茶道② 第 7 回 風呂敷① 第 8 回 風呂敷② 第 9 回 華道① 第 10 回 華道②		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（75％） 100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	着付けⅠ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	着付けを知る。		
授業概要	着物の着付け経験がないことを前提に、基礎（浴衣）から段階的に着物を着れるように実習を行う。また、文化祭などの機会を活用し、簡単な他装に取り組む。		
到達目標	着物の着方と帯結びができるようになり、簡単な着付けができるようになる。		
授業計画	第1回 浴衣の自装と半巾帯基本の結び方 その1 第2回 浴衣の自装と半巾帯基本の結び方 その2 第3回 浴衣の自装と半巾帯アレンジの結び方 第4回 男性浴衣の着せ方と各帯のしめ型 第5回 浴衣の他装と半巾帯基本の結び方復習 第6回 浴衣の他装と半巾帯のアレンジ 第7回 長襦袢と着物の自装 第8回 着物の自装と名古屋帯の結び方 その1 第9回 文化祭 他装実践演習 第10回 文化祭 他装実践演習 第11回 着物の自装と名古屋帯の結び方 その2 第12回 着物の自装 喪服の着方 第13回 着物の自装と名古屋帯の結び方復習 第14回 着物の自装 実技テスト 第15回 着物の自装と袋帯基本の結び方 その1 第16回 長襦袢と着物の他装 第17回 着物と名古屋帯の他装		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 各回実習評価（40％）実技テスト（35％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第10回実技授業参加で着付け技能士2級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	着付け I（男子）		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1 年次	単位数	1 単位（30 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	着付けを知る。		
授業概要	着物の着付け経験がないことを前提に、基礎（浴衣）から段階的に着物を着れるように実習を行う。また、文化祭などの機会を活用し、簡単な他装に取り組む。		
到達目標	着物の着方と帯結びができるようになり、簡単な着付けができるようになる。		
授業計画	第 1 回 浴衣の自装と角帯のしめ方 第 2 回 浴衣の自装と角帯のしめ方 第 3 回 女性浴衣の着せ方 第 4 回 女性浴衣の着せ方と半巾帯基本の結び方 その 1・その 2 第 5 回 女性浴衣の着せ方と半巾帯のアレンジ 第 6 回 長襦袢と着物の自装 第 7 回 長襦袢と着物と袴の自装 第 8 回 女性長襦袢と着物と袴の自装 第 9 回 文化祭 他装実践演習 第 10 回 文化祭 他装実践演習 第 11 回 女性着物と名古屋帯の他装 第 12 回 着物と袴の自装復習 第 13 回 着物と袴の自装 実技テスト 第 14 回 着物の自装 実技テスト 第 15 回 女性着物と名古屋帯の他装 第 16 回 女性着物と袋帯基本の結び方 その 1 第 17 回 自装か他装の復習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 各回実習評価（40％）実技テスト（35％） 100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第 10 回実技授業参加で着付け技能士 2 級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	浴衣Ⅱ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	浴衣の製作を通して、和裁の基礎知識・基礎動作を知り覚える。		
授業概要	浴衣製作を通して、和裁の基礎の和裁の基礎動作の修得と着物の縫製理解を学ぶ。		
到達目標	1. 手縫いの基礎縫いができる。 2. 縫製の動作を学ぶ。 3. 長着の構成と構造を学ぶ。 4. 縫製工程を学ぶ。		
授業計画	第1回 裁断の決まりと手順の説明と演習 第2回 袖、部分の縫い方の説明と演習 第3回 袖、部分の縫い方の説明と演習 第4回 たてくけ縫い方の説明と演習 第5回 たてくけ縫い方の説明と演習 第6回 衿作り方の説明と演習 第7回 衿作り方の説明と演習 第8回 衿作り方の説明と演習 第9回 衿作り方の説明と演習 第10回 袖付けの説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	浴衣Ⅱ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	浴衣の製作を通して、和裁の基礎知識・基礎動作を知り覚える。		
授業概要	浴衣製作を通して、和裁の基礎の和裁の基礎動作の修得と着物の縫製理解を学ぶ。		
到達目標	5. 手縫いの基礎縫いができる。 6. 縫製の動作を学ぶ。 7. 長着の構成と構造を学ぶ。 8. 縫製工程を学ぶ。		
授業計画	第1回 裁断の決まりと手順の説明と演習 第2回 袖、部分の縫い方の説明と演習 第3回 袖、部分の縫い方の説明と演習 第4回 たてくけ縫い方の説明と演習 第5回 たてくけ縫い方の説明と演習 第6回 衿作り方の説明と演習 第7回 衿作り方の説明と演習 第8回 衿作り方の説明と演習 第9回 衿作り方の説明と演習 第10回 袖付けの説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	浴衣Ⅲ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	部分縫いを通し細かな手順を覚え、縫製上の要点と要領を身に付ける。		
授業概要	着物の縫製で複雑な袖・衿の細かな手順を理解するとともに、縫製上の要点と要領を身に付けるため、袖・衿付け、衿始末の反復練習を行う。		
到達目標	9. 手縫いの基礎縫いができる。 10. 縫製の動作を学ぶ。 11. 長着の構成と構造を学ぶ。 12. 縫製工程を学ぶ。		
授業計画	第1回 袖部分縫いの反復練習 衿付けの反復練習 衿始末反復練習 第2回 袖部分縫いの反復練習 衿付けの反復練習 衿始末反復練習 第3回 袖部分縫いの反復練習 衿付けの反復練習 衿始末反復練習 第4回 袖部分縫いの反復練習 衿付けの反復練習 衿始末反復練習 第5回 袖部分縫いの反復練習 衿付けの反復練習 衿始末反復練習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	浴衣Ⅳ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	浴衣の制作を通し各工程の手順と縫い方を覚え動作を身に付ける。		
授業概要	学んできた基礎を活かして、着物づくりが流れでわかり、スムーズにできるように、はじめから完成まで通して浴衣の制作実習をおこなう。		
到達目標	13. 手縫いの基礎縫いができる。 14. 大まかな工程を理解している。 15. 各工程での手順をおおむね覚えている。 16. スムーズにできる。		
授業計画	第1回 ヘラ付けの説明と演習 第2回 袖付け演習 第3回 たて縫い決まりの復習と演習 第4回 巾ペラ基本の説明と演習 たて縫い演習 第5回 たてくけ部分始末の説明と演習 第6回 たてくけ決まりの復習と演習 第7回 衿作り・衿付け演習 第8回 衿始末の決まりの説明と演習 第9回 衿くけ演習 第10回 袖付け演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	浴衣Ⅴ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	浴衣の制作を通し各工程の手順と縫い方を覚えきり、動作をスムーズにする。		
授業概要	着物づくりの基本の理解を定着させ、スムーズに実習できるようになるため繰り返してはじめてから完成まで通して浴衣の制作実習をおこなう。		
到達目標	17. 手縫いの基礎縫いができる。 18. 大まかな工程を理解している。 19. 各工程での手順を覚えている。 20. スムーズにできる。		
授業計画	第1回 寸法割り出しと柄配置の説明と演習 第2回 袖付け演習 第3回 ヘラ準備の説明と演習 ヘラ付け演習 第4回 巾ベラ応用の説明と演習 たて縫い演習 第5回 たて縫い演習 第6回 たてくけ演習 第7回 たてくけ演習 第8回 衿作り柄配置の説明と演習 衿付け演習 第9回 衿始末・くけ演習 第10回 袖付け演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	浴衣VI		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1 年次	単位数	2 単位（90 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	男物浴衣の製作を通し女物との違いを覚え、手順の応用を理解する。		
授業概要	これまでおこなってきた女物浴衣と男物の違いを理解するため男物浴衣実習をおこなう。		
到達目標	2 1. 手縫いの基礎縫いができる。 2 2. 男女の着物の形の違いを学ぶ。 2 3. 形の違いによる手順・やり方の違いを学ぶ。		
授業計画	第 1 回 寸法割出しと柄配置の説明と演習 第 2 回 袖付け演習 第 3 回 ヘラ準備の説明と演習 ヘラ付け演習 第 4 回 巾ベラとたて縫い部分始末の説明と演習 第 5 回 たて縫い演習 第 6 回 たてくけ部分始末の説明と演習 第 7 回 たてくけ演習 第 8 回 衿作り柄配置の説明と演習 衿付け演習 第 9 回 衿始末・くけ演習 第 10 回 袖付け演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100 点満点で60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅰ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	着物科学生浴衣製作を通し出来栄を意識し、技術向上を図る。		
授業概要	より実践的に和裁の知識・技術を高めるために、校外学習で着用する着物学科の学生の浴衣製作をおこなう。校外学習で自分が縫製した浴衣を見ることで、出来栄の意識向上や実習の中での振り返りが行えるようになる。		
到達目標	24. 手縫い基礎縫いができる。 25. 工程・手順を覚えている。 26. スムーズにできる。 27. 出来栄を意識している。		
授業計画	第1回 縫製カードと指示書の見方 把握内容の説明 第2回 ヘラ準備復習と実習 第3回 袖付け実習 第4回 ヘラ付け・たて縫い実習 第5回 巾ヘラ・たて縫い実習 第6回 たてくけ実習 第7回 たてくけ実習 第8回 衿作り・衿付け実習 第9回 衿始末・くけ実習 第10回 袖付け実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	単衣長着		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	浴衣で学んだ内容をもとに、絹物の仕立て方を学ぶ。		
授業概要	これまでおこなってきた木綿の女物浴衣と絹物の単衣長着の違いを理解し、絹物のより繊細になる扱い方を学ぶため単衣長着の部分実習をおこなう。		
到達目標	2 8. 絹物で基礎縫いができる。 2 9. 新しい縫い方を学ぶ。 3 0. 木綿と絹物と仕立て方が違うことを理解する。		
授業計画	第 1 回 衿先部分縫い 第 2 回 背伏せ、接ぎ方、縫い方説明と演習 第 3 回 衿作り説明と演習 第 4 回 衿作り説明と演習 第 5 回 衿始末説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 実技課題（7 5 %） 1 0 0 点満点で 6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	袷長着 I		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1 年次	単位数	2 単位（90 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	浴衣と単衣長着で学んだ内容をもとに、袷長着の縫い方を学ぶ。		
授業概要	これまでの浴衣と単衣長着で学んだことを活かして、単衣と違う部分を中心に袷長着の部分演習をおこなう。		
到達目標	3 1. 絹物で基礎縫いができる。 3 2. 袷長着の構成と構造を学ぶ。 3 3. 縫製工程を学ぶ。		
授業計画	第 1 回 形と名称、縫製用語の説明 第 2 回 ヘラ付け説明と演習 第 3 回 表たて縫い演習 第 4 回 裏たて縫い説明と演習 第 5 回 表衿作り・衿付け演習 第 6 回 裏衿作り・付けの説明と演習 第 7 回 裾合わせ説明と演習 第 8 回 中とじ説明と演習 第 9 回 中とじ説明と演習 第 10 回 衿始末・くけ説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	袷長着Ⅱ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	浴衣と単衣長着で学んだ内容をもとに、袷長着の縫い方を学ぶ。		
授業概要	これまでの浴衣と単衣長着で学んだことを活かして、単衣と違う部分を中心に袷長着の演習をおこなう。		
到達目標	34. 絹物で基礎縫いができる。 35. 袷長着の構成と構造を学ぶ。 36. 縫製工程を学ぶ。		
授業計画	第1回 ヘラ付け復習と演習 第2回 表たて縫い演習 第3回 裏たて縫い復習と演習 第4回 表衿作り・衿付け演習 第5回 裏衿作り・付けの復習と演習 第6回 裾合わせ復習と演習 第7回 中とじ復習と演習 第8回 中とじ復習と演習 第9回 衿始末・くけ復習と演習 第10回 袖作り部分縫い説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	袷長着Ⅲ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	浴衣と単衣長着で学んだ内容をもとに、袷長着絹物の縫製上の決まりを学び、決まりに沿った縫い方を覚える。		
授業概要	袷長着の縫製上の決まりの説明を受け、それに沿った縫い方ができるように袷長着の演習をおこなう。		
到達目標	37. 絹物で基礎縫いができる。 38. 袷長着の構成と構造を理解している。 39. 縫製工程を覚えている。 40. 各工程での手順を覚えている。		
授業計画	第1回 ヘラ付けの説明と演習 第2回 表たて縫い決まりの説明と演習 第3回 裏たて縫い決まりの説明と演習 第4回 表衿作り・衿付け決まりの説明と演習 第5回 裏衿作り・付け決まりの説明と演習 第6回 裾合わせ復習・決まりの説明と演習 第7回 中とじ復習と演習 第8回 中とじ復習と演習 第9回 衿始末・くけ説明と演習 第10回 袖作り部分縫い説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	袷長着Ⅳ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	袷長着絹物の縫製上の決まりを覚え、決まりに沿った縫い方を覚える。		
授業概要	袷長着の縫製上の決まりに沿った縫い方ができるように袷長着の演習をおこなう。		
到達目標	4 1. 絹物で基礎縫いができる。 4 2. 袷長着の構成と構造を理解している。 4 3. 縫製工程を覚えている。 4 4. 各工程での手順を覚えている。		
授業計画	第1回 ヘラ付け復習と演習 第2回 表たて縫い演習 第3回 裏たて縫い演習 第4回 表衿作り・付け演習 第5回 裏衿作り・付け演習 第6回 裾合わせ演習 第7回 中とじ演習 第8回 中とじ演習 第9回 衿始末・くけ演習 第10回 袖付け説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	袷長着Ⅴ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト (大原和服専門学園)
授業目的	袷長着絹物の縫製上の決まりを理解し、決まりに沿った縫い方を覚えきる。		
授業概要	袷長着の縫製上の決まりに沿った縫い方ができるように繰り返し袷長着の演習をおこなう。		
到達目標	45. 絹物で基礎縫いができる。 46. 袷長着の構成と構造を理解している。 47. 縫製工程を覚えている。 48. 各工程での手順を覚えている。		
授業計画	第1回 ヘラ付け演習 第2回 表たて縫い演習 第3回 裏たて縫い演習 第4回 表衿作り・付け演習 第5回 裏衿作り・付け演習 第6回 裾合わせ演習 第7回 中とじ演習 第8回 中とじ演習 第9回 衿始末・くけ演習 第10回 袖付け演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	長襦袢 I		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I オリジナルテキスト (大原和服専門学園)
授業目的	浴衣で学んだ内容をもとに、長襦袢の縫い方を学び。新しい縫い方を覚える。		
授業概要	これまで学んできた長着と長襦袢の違いを理解し、長襦袢の新しい縫い方を学ぶため長襦袢の縫製実習を行う。		
到達目標	4 9. 絹物で基礎縫いができる。 5 0. 長襦袢の構成と構造を理解している。 5 1. 縫製工程を覚えている。 5 2. 各工程での手順を覚えている。		
授業計画	第 1 回 袖作り説明と演習 第 2 回 ヘラ付け・たて縫い説明と演習 第 3 回 たてくけ説明と演習 第 4 回 衿作り・付け・衿始末・くけ説明と演習 第 5 回 袖付け説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 実技課題（7 5 %） 1 0 0 点満点で 6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	長襦袢Ⅱ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	1単位（45時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	袷長着で学んだ内容をもとに、長襦袢の縫い方を学び。新しい縫い方を覚える。		
授業概要	これまで学んできた長着と長襦袢の違いを理解し、長襦袢の新しい縫い方を学ぶため長襦袢の縫製実習を行う。		
到達目標	53. 絹物で基礎縫いができる。 54. 長襦袢の構成と構造を理解している。 55. 縫製工程を覚えている。 56. 各工程での手順を覚えている。		
授業計画	第1回 付属品の説明とその縫い方 第2回 袷長襦袢の構成と構造の説明 第3回 袷長襦袢ヘラ付け説明と表たて縫い演習 第4回 袷長襦袢裏あて縫い・中とじの説明と演習 第5回 袖付け・衿付け・衿始末・くけ説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅱ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 1年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	産学実習を通し、これまで学んだことを実践的に行い、基礎知識の定着と縫製技術の向上を図る。		
授業概要	産学協同システムを活用し、浴衣・長襦袢・単衣長着・袷長着等を実習課題として実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	57. 期限内に仕上げるができる。 58. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	きもの学Ⅱ		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 2年次	単位数	1単位（21時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	大原敏敬・大原健嗣 石崎功	テキスト	きものの基本 きもののたのしみ
授業目的	きもの学Ⅰの知識をより専門的な学びを通して、着物をより深く理解する。		
授業概要	和服地、着物の流通、着物の管理等の専門的内容を講義形式で学ぶ		
到達目標	着物業界で働くための着物の専門知識を身に付ける。		
授業計画	第1回 和服地① 第2回 和服地② 第3回 和服地③ 第4回 和服地④ 第5回 和服地⑤ 第6回 和服地⑥ 第7回 着物の管理① 第8回 着物の管理② 第9回 着物の流通① 第10回 着物の流通② 第11回 時代テーマ① 第12回 時代テーマ②		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） ・課題提出（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		

授業科目名	日本文化Ⅱ		
学年・年次	和裁学科・着物学科共通 2年次	単位数	1単位（15時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	八木尚宏、松下園甫 岡本輸志、森本勇也 熊谷宝子	テキスト	プリント
授業目的	着物をより理解するために日本文化を様々な視点から学ぶ。		
授業概要	各専門講師より日本の文様、茶道・華道・風呂敷の包方などを演習や講義を通して学ぶ。		
到達目標	講義や演習をとおして日本の文化を様々な視点から理解する。		
授業計画	第1回 神社① 第2回 神社② 第3回 茶道① 第4回 陰陽五行 第5回 茶道② 第6回 家紋 第7回 華道① 第8回 華道② 第9回 平安装束① 第10回 平安装束②		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・・授業態度×授業回数（15％） 課題提出（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	着付けⅡ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	他装ができるようになる。		
授業概要	着物の袋帯を中心に他装の着付けができるように実習をおこない、基礎からアレンジまで様々な帯結びができるようになる。		
到達目標	他装ができるようになり、様々な帯結びが結べるようになる。		
授業計画	第1回 着物の自装と名古屋帯・袋帯の復習 第2回 普段着着物の他装の復習 第3回 体型別補正と長襦袢・着物の他装 第4回 着物の他装と袋帯結び方 その1 第5回 着物の他装と袋帯結び方 その2 第6回 着物の他装と袋帯結び方 その3 第7回 着物の他装と袋帯結び方 その4 第8回 着物の他装と袋帯結び方アレンジ その1 伊達衿の使い方 第9回 着物の他装と袋帯結び方アレンジ その2 伊達衿の使い方 第10回 文化祭 他装実践演習 第11回 文化祭 他装実践演習 第12回 着物の他装と袋帯結び方 その2～アレンジその2までの復習 第13回 着物の他装と袋帯結び方 その2～アレンジその2までの復習 第14回 着物の他装と袋帯結び方 その1の復習 第15回 着物の他装と袋帯結び方 その1の復習 第16回 着物の他装 実技テスト 第17回 自装か他装女袴の着付け		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 各回実習評価（40％）実技テスト（35％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第10回実技授業参加で着付け技能士2級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	着付けⅡ（男子）		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	なし
授業目的	他装ができるようになる。		
授業概要	着物の袋帯を中心に他装の着付けができるように実習をおこない、基礎からアレンジまで様々な帯結びができるようになる。		
到達目標	他装ができるようになり、様々な帯結びが結べるようになる。		
授業計画	第1回 着物の自装と各帯のしめ方・袴の着方の復習 第2回 普段着着物の他装の復習 第3回 体型別補正と長襦袢・着物の他装 第4回 着物の他装と袋帯結び方 その1 第5回 女性浴衣他装の復習 第6回 女性浴衣他装の復習と半巾帯アレンジ 第7回 着物の他装と袋帯結び方 その2 第8回 着物の他装と袋帯結び方 その3 第9回 着物の他装と袋帯結び方 その4 第10回 着物の他装と袋帯結び方アレンジ その1 伊達衿の使い方 第11回 文化祭 他装実践演習 第12回 文化祭 他装実践演習 第13回 着物の他装と袋帯結び方アレンジ その2 伊達衿の使い方 第14回 着物の他装と袋帯結び方 その1の復習 第15回 着物の他装 実技テスト 第16回 着物の他装と袋帯結び方 その2～アレンジその2までの復習 第17回 着物の他装と袋帯結び方 その2～アレンジその2までの復習 第18回 他装女袴の着付け		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 各回実習評価（40％）実技テスト（35％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第10回実技授業参加で着付け技能士2級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	袷長着応用Ⅰ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	袷長着の各種の課題を通し新しい要素を理解し、知識・縫い方の応用力を養う。		
授業概要	袷長着の各種類に応じた縫製上の決まりに沿った縫い方ができるように各種の袷長着の部分演習をおこなう。		
到達目標	59. 課題を期限内に仕上げられる。 60. 基礎知識を応用することができる。 61. 縫い方を応用することができる。		
授業計画	第1回 修理の手順と考え方の説明と演習 第2回 修理演習 第3回 喪服・留袖の概要と紋合わせ、ぐし縫い方の説明と演習 第4回 留袖付け比翼の概要と比翼身頃の構成と構造の説明と演習 第5回 留袖付け比翼衿の構成と構造の説明と演習 第6回 留袖付け比翼袖の構成と構造の説明と演習演習 第7回 絵羽物の縫い方の説明と演習 第8回 絵羽物の柄の合わせ方と演習 その1 第9回 絵羽物の柄の合わせ方と演習 その2 第10回 絵羽物の柄合わせ総合演習 第11回 男物の材料と縫い方の説明と演習 第12回 補綴の仕方の説明と演習 第13回 バチ衿の縫い方の説明と演習 第14回 用尺不足の時の考え方の説明 第15回 用尺不足の時の衿作りの説明と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	袷長着応用Ⅱ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	袷長着の各種の課題を通し新しい要素を理解し、知識・縫い方の応用力を養う。		
授業概要	袷長着の各種類に対応できるよう足し布・二部式・ミシン・綿入れなど応用的な考え方の理解と部分演習をおこなう。		
到達目標	62. 課題を期限内に仕上げられる。 63. 基礎知識を応用することができる。 64. 縫い方を応用することができる。		
授業計画	第1回 生地特性による整え方 その1 第2回 生地特性による整え方 その2 第3回 足し布の考え方と縫い方の説明と演習 その1 第4回 足し布の考え方と縫い方の説明と演習 その2 第5回 足し布の考え方と縫い方の説明と演習 その3 第6回 二部式の考え方と縫い方の説明と演習 その1 第7回 二部式の考え方と縫い方の説明と演習 その2 第8回 二部式の考え方と縫い方の説明と演習 その3 第9回 ミシンの取り扱い 第10回 ミシン縫製の考え方と縫い方の説明と演習 その1 第11回 ミシン縫製の考え方と縫い方の説明と演習 その2 第12回 ミシン演習 第13回 ミシン演習 第14回 フキ綿入れ演習 その1 第15回 フキ綿入れ演習 その2		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	帯		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2 年次	単位数	1 単位（4 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵	テキスト	きもの I オリジナルテキスト (大原和服専門学園)
授業目的	名古屋帯の柄付け位置を理解し、仕立て方を学ぶ。作り帯の仕立て方を学ぶ。		
授業概要	名古屋帯と作り帯の仕立て方を理解しできるようになるため名古屋帯と作り帯の製作実習をおこなう。		
到達目標	6 5. 名古屋帯の柄付け位置を理解している。 6 6. 作り帯が仕立てられる。		
授業計画	第 1 回 名古屋帯の形と名称、材料の説明 第 2 回 帯芯の使い方の説明と演習 第 3 回 太鼓の縫い方と演習 第 4 回 手先の縫い方と演習 第 5 回 作り帯の縫い方と演習		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 実技課題（7 5 %） 1 0 0 点満点で 6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	裁断		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	茂里 恵 安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	裁断の基礎知識と基本手順を学び、裁断の流れを実践する。		
授業概要	裁断の基本的な手順の理解と各種における裁断上の注意点も理解して裁断実習をおこなう。		
到達目標	67. 裁断の流れがわかる。 68. 引き合い文章が正しく書ける。		
授業計画	第1回 検反の説明と演習 その1 第2回 検反の説明と演習 その2 第3回 飛び柄の見方と見積もり方の説明と演習 第4回 紋付の見積もり方の説明と演習 第5回 袷の見積もり方の説明と演習 第6回 絵羽物の見積もり方の説明と演習 第7回 裁断総合実習 第8回 裁断総合実習 第9回 裁断総合実習 第10回 裁断総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅲ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	69. 期限内に仕上げることができる。 70. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 71. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅳ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が17点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅴ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅵ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅶ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅷ		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）IX		
学年・年次	和裁科・和裁研究科 2年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものI オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が17点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	きもの学Ⅲ		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	各教員・講師	テキスト	
授業目的	学生自身が個々に深めたい専門的なテーマを、教員・講師・関係者と連携しながら、自身が身に付けた専門技術を活かして研究制作ができるようになる。		
授業概要	学生自身が個々に深めたい専門的なテーマにあわせて、教員・講師が個別に指導し、外部関係者と協力しながら専門テーマにあわせた研究制作をおこなう。		
到達目標	外部の専門家・機関と関係性をもち、専門的なテーマを深めることができる。 専門技術で専門的テーマに沿った制作物をつくることができる。		
授業計画	オリエンテーション 各教員・講師と専門テーマに沿った研究制作		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％）・課題提出（45％）・課題研究の内容（30％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	和裁ビジネス 1		
学年・年次	和裁専門科 1 年次 和裁研究科 3 年次	単位数	1 単位（30 時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大森 貴之	テキスト	なし
授業目的	着物のリサイクルの現状を知り、廃棄する着物に新たな価値を考え企画し、仕立て替えの技術を学び商品を作成する。		
授業概要	(株)エコリンク・(一社) 日本和裁士会大阪府支部と連携して、(株)エコリンクの関西倉庫でリサイクル着物の仕分け実習を行い、その中で廃棄する着物から仕立て替えによりあらたな価値をもった商品を実習で制作する。		
到達目標	きものの仕分けの目利きの基礎がわかる。 仕立て替えができるようになる。		
授業計画	(株)エコリンク関西倉庫にて着物仕分け実習 仕立て替えについての考え方講義 仕立て替え実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・・授業態度×授業回数（15％） ・課題提出（75％） 100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	着付けⅢ		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	着付け技能検定の過去問
授業目的	他装の技術を磨く		
授業概要	着付け技能士2級の合格を目指して検定対策実習をおこなう。花嫁衣裳及び振袖の礼装着付けも行う。		
到達目標	着付け技能検定2級合格レベルの技術を身につける。		
授業計画	第1回 着物の自装と名古屋帯・袋帯の復習 第2回 着物他装、長襦袢の着付け、準備の仕方 第3回 訪問着着付け 第4回 訪問着着付け 第5回 訪問着着付けと袋帯二重太鼓 第6回 訪問着着付けと袋帯二重太鼓 第7回 検定試験対策 時間配分と寸法 第8回 検定試験演習 第9回 検定試験演習のフィードバック 第10回 検定試験演習 第11回 文化祭 他装実践演習 第12回 文化祭 他装実践演習 第13回 検定試験演習 第14回 花嫁着付け 第15回 花嫁着付け 第16回 振袖着付けと袋帯の結び方 第17回 振袖着付けと袋帯の結び方 実技テスト 第18回 他装か自装女袴の着付け		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 各回実習評価（40％）実技テスト（35％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第10回実技授業参加で着付け技能士2級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	全縫製作（産学）X		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものI オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）XI		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものI オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅻ		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）ⅩⅢ		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）XIV		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものI オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）X V		
学年・年次	和裁専門科 1 年次 和裁研究科 3 年次	単位数	3 単位（1 3 5 時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きもの I オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が 3 0 点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（1 0 %）・授業態度×授業回数（1 5 %） 実技課題（7 5 %） 1 0 0 点満点で 6 0 点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）XVI		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものI オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が30点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）XVII		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものI オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が30点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）XⅧ		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が30点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）XIX		
学年・年次	和裁専門科 1年次 和裁研究科 3年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものI オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が24点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	きもの学Ⅳ		
学年・年次	和裁研究科 4年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	各教員・講師	テキスト	
授業目的	学生自身が個々に深めたい専門的なテーマを、教員・講師・関係者と連携しながら、自身が身に付けた専門技術を活かして研究制作ができるようになる。		
授業概要	学生自身が個々に深めたい専門的なテーマにあわせて、教員・講師が個別に指導し、外部関係者と協力しながら専門テーマにあわせた研究制作をおこなう。		
到達目標	外部の専門家・機関と関係性をもち、専門的なテーマを深めることができる。 専門技術で専門的テーマに沿った制作物をつくることができる。		
授業計画	各教員・講師と専門テーマに沿った研究制作		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％）・ 課題提出（45％）・課題研究の内容（30％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	和裁ビジネスⅡ		
学年・年次	和裁研究科 4年次	単位数	1単位（30時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大原 加容子	テキスト	なし
授業目的	独立自営和裁士に必要な、展示会場などでの採寸・要望のヒアリング・加工伝票の記入及び接客方法を学び、和裁士に反物が来るまでの業務を理解する。 着物のお手入れの業務と接客相談業務を理解する。		
授業概要	和裁士の手元に来るまでの流れを、展示会場などでの採寸・加工伝票の記入、接客方法を経験する。(株)ayanasu と連携して、着物のお手入れの実務を理解し、実店舗でのきもののお手入れ接客業務を経験する。		
到達目標	きものの仕立てをするための採寸・要望を聞き加工伝票を記入することができる。 きもののお手入れの実務と接客方法を理解する。		
授業計画	きもの商社での展示会での採寸・要望のヒアリング・加工伝票の記入及び接客方法実習 引き合い方法等加工業務実習 着物のお手入れの実務の見学 実店舗でのきもののお手入れ接客業務実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・・授業態度×授業回数（15％） ・課題提出（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	着付けⅣ		
学年・年次	和裁研究科４年次	単位数	１単位（３０時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田 敦子	テキスト	着付け技能検定の過去問
授業目的	他装の技術を磨き高める		
授業概要	着付け技能士２級の合格を目指して検定対策実習、花嫁衣裳及び袴着付けの復習を行う。講師アシスタントとして１年生の授業に参加し、指導の方法について学ぶ。		
到達目標	着付け技能検定２級合格レベルの技術を身につける。 実践の現場でアシスタントとして着付けができるようになる。 講師の業務を理解し、アシスタントとして対応できる。		
授業計画	第１回 検定課題 寸法の取り方、補正と長襦袢着付け 第２回 検定課題 訪問着の着せ方と二重太鼓 第３回 検定課題 所作、美しさクオリティ 第４回 検定課題 時間間隔と配分 第５回 訪問着着付けと袋帯二重太鼓 第６回 訪問着着付けと袋帯二重太鼓 第７回 検定試験対策 時間配分と寸法 第８回 検定試験演習 第９回 検定試験演習のフィードバック 第１０回 講師アシスタント長襦袢の着方と普段着着物の着方の指導方法 第１１回 講師アシスタント長襦袢の着方と名古屋帯の結び方の指導方法 第１２回 ２・３・４合同 着物の着せ方（和ッザニア） 第１３回 花嫁着付け 第１４回 花嫁着付け 第１５回 振袖着付けと袋帯の結び方復習 第１６回 振袖着付けと着崩れの直し方 第１７回 振袖着付けと袋帯の結び方 実技テスト 第１８回 他装か自装女袴の着付け		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 各回実習評価（４０％）実技テスト（３５％） １００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第１０回実技授業参加で着付け技能士２級の受験資格の一部を満たすこととなる。		

授業科目名	全縫製作（産学）X X		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が35点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）X XI		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きもの I オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が35点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）XⅪⅡ		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が35点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）X X III		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きもの I オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が35点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）X XIV		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が35点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）X X V		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	2単位（90時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きもの I オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が25点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）X X VI		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きもの I オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が35点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）X X VII		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きもの I オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が35点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）X XⅧ		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	1. 期限内に仕上げることができる。 2. 縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 3. 取得点数が35点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）X XIX		
学年・年次	和裁研究科4年次	単位数	3単位（135時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田 有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	4．期限内に仕上げることができる。 5．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 6．取得点数が35点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（10％）・授業態度×授業回数（15％） 実技課題（75％） 100点満点で60点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		